

抗議文

杉並区教育委員会

委員長 大蔵雄之助 様
委員長職務代理者 宮坂 公夫 様
委員 安本 ゆみ 様
委員 大橋 辰雄 様
教育長 井出 隆安 様

新しい歴史教科書をつくる会編集の扶桑社版歴史教科書採択に 断固として抗議し、採択の撤回、採択手続きのやり直しを要求します。

本日8月12日、杉並区教育委員会は、新しい歴史教科書をつくる会（「つくる会」）編集の扶桑社版歴史教科書を、反対意見があるにもかかわらず審議をつくすことなく、2005年に引き続き強行採択しました。私たちはこの暴挙に怒りを込めて抗議し、採択の撤回・やり直しを要求します。

2005年夏、杉並区教育委員会が、多くの教員や区民の反対を無視して、「つくる会」扶桑社版歴史教科書を採択して以来、区立中学校の教員たちは、苦悩と葛藤の日々を過ごしてきました。そして子どもたちは、小学校・中学校・高校と、学習の連続性を断たれ、教科書への不信感を高めています。一般の歴史学習からあまりにもかけ離れた内容は、子どもたちの学習に支障をきたしています。教員から指摘されている単純な事実の間違いさえ過去4年間一度も訂正申請を行っていません。にもかかわらず再び採択したことは、杉並区教育委員会が子どもたちへの教育的観点をないがしろにして政治的な意図を最優先したことを示しています。これは杉並区民に対する裏切り行為そのものです。

扶桑社版歴史教科書は、多くの人が繰り返し批判しているように、政治的な意図をもって史実を歪曲した極めて特異な教科書です。日本が行った侵略戦争を正当化し、植民地政策などで近隣諸国に多大な被害を与えたことを隠す、自国中心主義の教科書です。

さらに、「つくる会」は会の内紛により分裂し、ほぼ同じ内容の扶桑社版と自由社版の2種類の教科書を発行しています。その著作権をめぐる現在係争中でもあります。このような多くの問題を抱えている教科書を、敢えて採択し、子どもたちに手渡すことは、教育行政として無責任極まりないことです。

歴史的な裏づけのない独断と自己主張を押しつけている「つくる会」の歴史教科書を、反対意見を無視して、教育委員長長の強圧的な議事進行で恣意的に採択したことは、教員の教育に対する意欲を奪うことにつながり、結果的に杉並区の公教育を破壊するものです。

貴教育委員会の暴挙に対し断固として抗議するとともに、採択の撤回・やり直しを強く要求します。

2009年8月12日
8・12抗議集会参加者一同